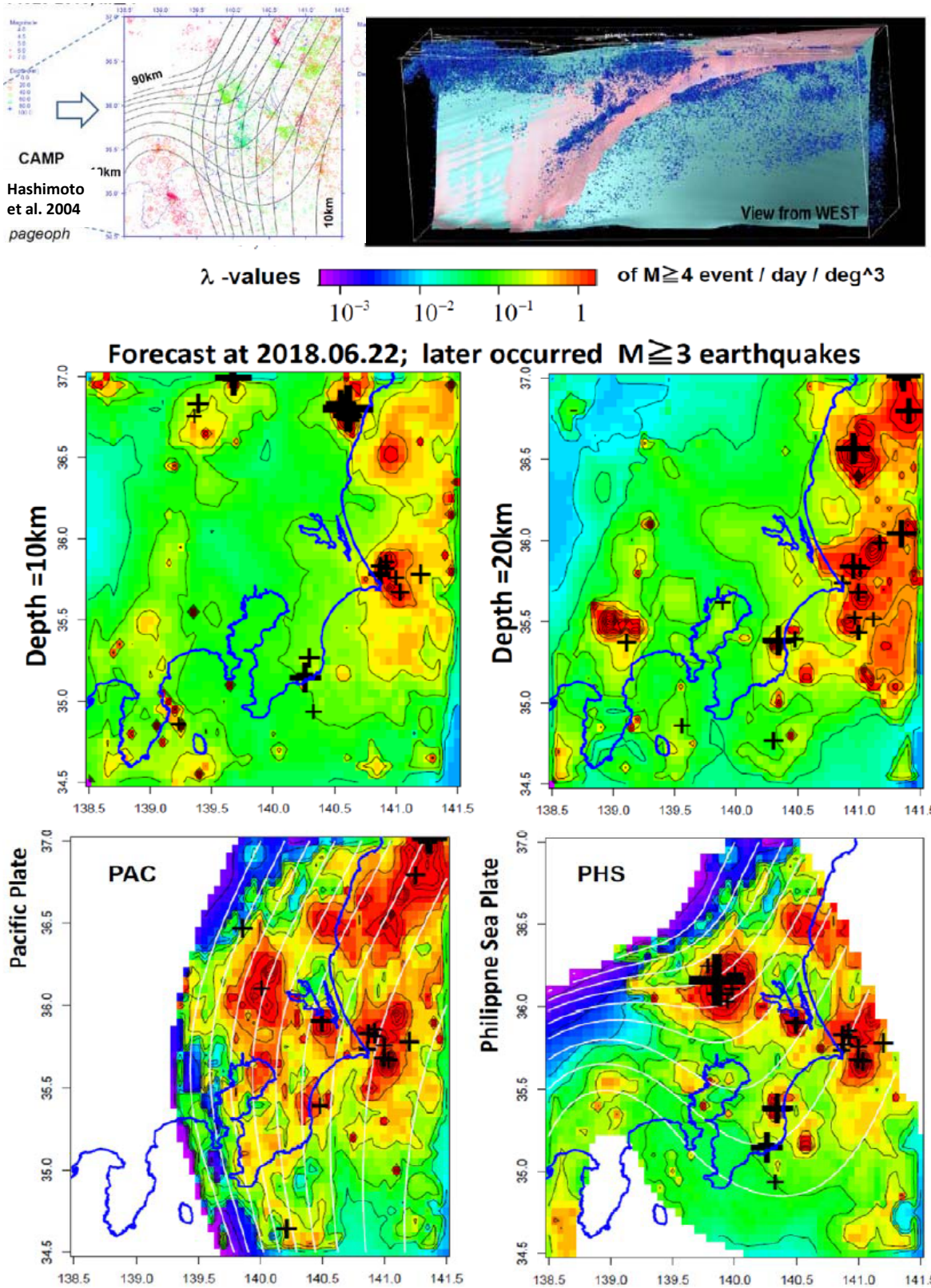
首都圏直下の三次元地震活動の時空間統計モデルと詳細予測



図の説明: 発生強度の、深さ10 kmと20 kmの平面およびPACとPHSの上面における、スナップショット。対数色標の単位（＝1）はM4基準値0.036 / 日/ (111 km)^3に対応。黒い細線の輪郭間隔は対数目盛で1.0。

＋印は予測後半年で起きた各面からの近隣の地震を示している。すなわち10km平面内で0～15km以内、10km平面内で16～30km以内、またプレートの上面から5km上および10km下の深さ範囲内である。